

9. 4から8までに掲げる事業及び措置の総合的かつ一体的推進に関する事項

[1] 市町村の推進体制の整備等

(1) 市内における推進・連携体制

① 中心市街地活性化を統括する組織

本市では、中心市街地の活性化をハード・ソフト両面から、より一層強力かつ一体的に推進するため、平成20年4月に機構改革を行い、産業振興部商業観光課に、中心市街地活性化推進担当を設置した。

所 属	員数・役割
課 長	1名 中心市街地活性化施策推進の統括
担 当	8名（うち2名は兼務〈建築住宅課1名、都市計画課1名〉） 中心市街地活性化施策の推進に関すること
合 計	9名（うち兼務2名）

② 高岡市中心市街地活性化基本計画市内推進会議及び市内推進会議幹事会

中心市街地活性化基本計画の策定及び計画に掲げた施策・事業を円滑に推進するため、平成19年4月に高岡市中心市街地活性化基本計画市内推進会議及び市内推進会議幹事会を設置した。

名 称	メ ン バ ー
市内推進会議	副市長(2名)、教育長、水道事業管理者、経営企画部長、総務部長、産業振興部長、生活環境部長、福祉保健部長、建設部長、都市整備部長
市内推進会議幹事会	都市経営課長、産業振興部理事、商業観光課長、地域安全課長、社会福祉課長、道路建設課長、建築住宅課長、都市計画課長、駅周辺・新幹線対策課長、生涯学習課長、文化財課長

(2) 高岡市議会における討議の内容

高岡市議会において、中心市街地活性化等に関連した質問に対して、以下のとおり答弁している。

会議・年月日	討議内容
平成22年9月定例会 (H22.9.17)	<p>自民党議員会 個別質問 (質問要旨)</p> <p>中心市街地活性化の取り組みについて</p> <p>中心市街地活性化基本計画の計画期間が1年半後に終了するが、今後の計画を策定するに当たり、わかりやすい目標と具体的な案を今からつくるべき。</p> <p>(産業振興部長答弁)</p> <p>中心市街地活性化基本計画では3つの基本目標と4つの目標指標を掲げている。基本目標の1つ目には、歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大、2つ目には、まちなか居住の推進、3つ目には、中心商店街のにぎわいの創出を定めている。目標指標は、1つには主要観光施設における</p>

	<p>観光客入り込み数、2つには中心市街地における居住人口、3つには中心商店街における平日、休日の歩行者、自転車通行量の平均値、そして4つには中心商店街における空き店舗数、以上の4つを定めており、この数値目標を達成すべく85の事業に取り組んでいる。</p> <p>計画は平成24年3月に終期を迎え、中心市街地活性化のための新たな整備計画が必要になってくるものと考えている。</p> <p>今後、本計画に基づいた事業の進捗管理や事業効果の検証など総合的なフォローアップを行うとともに、高岡市中心市街地活性化協議会や関係団体等の皆様と意見交換や協議を進めていきたいと考えている。そして、国の動向も見きわめながら、よりわかりやすい高岡らしい次期中心市街地活性化基本計画とも言うべきものを策定していければと考えている。</p>
<p>平成23年6月定例会 (H23. 6. 22)</p>	<p>日本共産党 個別質問 (質問要旨)</p> <p>高岡駅周辺整備事業完了後について</p> <p>高岡駅周辺整備事業完了後、周辺の通行量の増大や中心商店街のにぎわい創出等、数値的にどのように予測しているか。</p> <p>(産業振興部長答弁要旨)</p> <p>中心市街地活性化基本計画では、商店街のにぎわいを示す数値目標を定めている。中心商店街における平日、休日の歩行者、自転車通行量の平均値を1万1,300人から1万3,500人に、空き店舗数を46件から37件としている。現在、平成24年度から28年度までの5年間を計画期間とする計画の改定作業を進めている。その中で、高岡駅周辺整備事業をはじめ、5年間で取り組む事業の効果を勘案しながら、新たな数値目標を設定することとしている。</p>
<p>平成23年12月定例会 (H23. 12. 9)</p>	<p>政峰会 個別質問 (質問要旨)</p> <p>高岡の中心市街地の今後について</p> <p>1期計画が終了する来年3月以降の取り組みと将来像についての考えは。</p> <p>(市長答弁要旨)</p> <p>平成24年度から5ヵ年を計画期間とした第2期計画案の作成を進めている。市議会をはじめ中心市街地活性化協議会や、市民の皆様の意見を伺いながら、3月の認定に向けて策定作業を進めていく。第2期計画では、第1期計画の成果と課題を十分に検証し、計画期間中に開業する北陸新幹線の効果を取り込みながら、中心市街地エリアの賑わいを取り戻すことが課題である。さらに、いわゆる歴史都市の認定を受けて、</p>

歴史・文化資産の高岡の地域特性を活かした中心市街地の活性化を図ることが重要と考えている。このため第2期計画では、JR高岡駅周辺整備事業に引き続き取り組むとともに、ステーションビルの改築、駅地下街のリニューアルなど、新しい街の拠点整備を進める。また、駅前から中心商店街の拠点である御旅屋セリオを経て大仏に至る通りを、賑わいあふれるエリアに復活させ、さらには、山町、金屋町へと歩いて楽しい空間になるように「たかおかストリート構想」を積極的に展開する。さらに、歴史都市への取り組みと連動しながら、御車山会館の建設、金屋町の重要伝統的建造物群の指定を進めるとともに、新幹線新駅から中心市街地へ人々の流れを導く方策、さらにはまちなか居住の促進策など、ハード・ソフトを織り交ぜて、総合的な事業展開を計画的、積極的に進めていく。

(3) 中心市街地活性化等について市民意見を聴取する場の設定

市民と市長が語り合う「わがまちトーク」を市内全域で開催し、その中で中心市街地の活性化等についても議論が行われた。これとは別に、階層別・テーマ別の「ふれあいトーク」も開催してきたところである。

わがまちトークの開催状況（中心市街地区域該当地区抜粋）

開催日	対象地区	会場	参加人員
平成21年11月9日(月)	平米地区	平米公民館	86名
平成21年11月12日(木)	川原地区	川原公民館	58名
平成21年12月2日(水)	定塚地区	定塚公民館	78名
平成22年1月14日(木)	成美地区	成美公民館	110名
平成22年2月24日(水)	下関地区	東部公民館	74名
平成22年3月29日(月)	博労地区	博労公民館	46名

階層別・テーマ別わがまちトークの開催状況（中心市街地区域該当地区抜粋）

開催日	対象の階層・テーマ	会場	参加人員
平成21年9月28日(月)	観光	瑞龍寺	14名
平成23年4月23日(土)	子育て支援	子育て支援センター	19名
平成23年7月25日(月)	歴史・文化資産を活かすまちづくり	金屋町公民館	17名

[2] 中心市街地活性化協議会に関する事項

(1) 高岡市中心市街地活性化協議会の概要

本市のまちづくり機関（旧TMO）を担う第三セクターである株末広開発及び高岡商工会議所が共同設立者となり、平成18年12月21日、高岡市中心市街地活性化協議会（以下、「協議会」という。）を設立した。

協議会の構成員は、経済団体、まちづくり会社、商業者、交通事業者、地域団体、学識経験者、行政からなる17団体の代表者等の22名である。

また、協議会の下部組織として幹事会を置き、多様な団体が中心市街地の活性化という大きな課題にどのように参画し、どう連携を図っていくのかを協議しながら取り組んでいる。

なお、幹事会には自治会代表、まちづくり市民団体などからも参画いただいている。

基本計画の進捗や新たな状況に対応するため、適宜、協議会や幹事会を開催し、具体的な中心市街地の活性化策について検討・協議している。

第2期高岡市中心市街地活性化基本計画（案）に対する意見等については、別記のとおり提出されている。

(2) 高岡市中心市街地活性化協議会の組織等

① 事務局

本協議会の事務局は、末広開発(株)まちづくり事業部に置く。

② 構成員 (H23. 12. 15 現在)

役 職	区 分 (根拠条項)	所 属 及 び 役 職 等	氏 名
会長	商工会議所	高岡商工会議所会頭	川村 人志
副会長	〔 第 15 条第 1 項 第 2 号 〕	高岡商工会議所副会頭	塩谷 雄一
委員		高岡商工会議所専務理事	荻原 隆夫
副会長	まちづくり会社 〔 第 15 条第 1 項 第 1 号 〕	末広開発(株)代表取締役社長	荒井 公夫
副会長	行政機関 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	高岡市副市長	林 時彦
委員		高岡市産業振興部長	坂下 照夫
委員		高岡市都市整備部長	加藤 雅俊
委員		高岡市建設部長	長岡 裕
委員	商業者 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	高岡市商店街連盟会長	酒井 敏行
委員		末広町商店街振興組合理事長	吉居 正
委員		御旅屋通商店街振興組合理事長	河合 晋
委員		(株)大和高岡店店長	高田 睦男
委員	交通事業者 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	JR 西日本旅客鉄道(株)金沢支社高岡駅長	朽木 勝宣
委員		加越能鉄道(株)取締役社長	川岸 宏
委員		万葉線(株)代表取締役社長	竹平 栄太郎
委員	地域経済 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	(株)高岡ステーションビル代表取締役社長	堀 巖
委員		オタヤ開発(株)代表取締役社長	濱谷 元一郎
委員		北陸電力(株)高岡支社長	山下 義順
委員		北陸銀行(株)常務執行役員高岡地区事業本部長	西田 隆文
委員		協同組合高岡建設業協会会長	寺崎 敏治
委員	都市福利施設 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	(株)蔵のまちスクエア「山町茶屋」代表取締役社長	菅野 克志
委員	有識者 〔 第 15 条第 4 項 関係 〕	富山大学芸術文化学部教授	貴志 雅樹
オブザーバー 〔 第 15 条第 7 項 関係 〕		富山県商工労働部商業まちづくり課長	杉田 和樹
		富山県土木部都市計画課長	林 正之
		高岡警察署交通官 (交通第一課長)	河村 盛夫
		高岡消防署長	今井 仁至

③ 幹事会の構成員（H23.12.15 現在）

役 職	区 分	所 属 及 び 役 職 等	氏 名
副会長	商工会議所	（会長代行）高岡商工会議所副会頭	塩谷 雄一
幹事		高岡商工会議所流通対策常任委員長	山崎 隆志
幹事		高岡商工会議所地域開発常任委員長	小竹 哲
幹事		高岡商工会議所第2流通部会長	土田 一清
委員／幹事		高岡商工会議所専務理事	荻原 隆夫
幹事	まちづくり会社	末広開発(株)代表取締役専務	岩坪 正人
委員／幹事	高岡市	高岡市産業振興部長	坂下 照夫
幹事		高岡市産業振興部商業観光課長	青島 恒巳
幹事		高岡市都市整備部都市計画課長	高木 邦昭
幹事		高岡市都市整備部駅周辺・新幹線対策課長	藤井 久雄
幹事		高岡市建設部建築住宅課長	北野 弘信
委員／幹事	商業者など	高岡市商店街連盟会長	酒井 敏行
委員／幹事		末広町商店街振興組合理事長	吉居 正
委員／幹事		御旅屋通商店街振興組合理事長	河合 晋
幹事		(社)高岡市観光協会専務理事	蒲田 幸雄
幹事		BELLISSIMO KEI 567 代表	金三津 景子
委員／幹事		(株)大和高岡店店長	高田 睦男
委員／幹事	交通事業者	JR 西日本旅客鉄道(株)金沢支社高岡駅長	朽木 勝宣
幹事		加越能鉄道(株)営業部副部長	山崎 勝
幹事		万葉線(株)代表取締役専務	椎木 辰雄
委員／幹事	地域経済	(株)高岡ステーションビル代表取締役専務	石黒 賢正
幹事		高岡ケーブルネットワーク(株)専務取締役	石丸 昌之
委員／幹事		協同組合高岡建設業協会会長	寺崎 敏治
幹事		高岡市ホテル旅館事業（協）理事長	宇波 真一郎
幹事		高岡商工会議所青年部会長	杉本 一
幹事		高岡青年会議所理事長	高野 裕史
幹事		オタヤ開発(株)常務取締役	西湊 一郎
委員／幹事	都市福利施設	(株)蔵のまちスクエア「山町茶屋」代表取締役社長	菅野 克志
幹事		まちの駅ネットワーク高岡会長	伏江 努
委員／幹事	有識者	富山大学芸術文化学部教授	貴志 雅樹
幹事	自治会及び コミュニティ など	元気たかおか未来会議会長	松田 英昭
幹事		G A 開発研究所所長	柴田 裕弘
幹事		まちづくり市民応援団会長	武山 良三
幹事		瑞龍寺夢参道まち衆会会長	川原 隆平

(3) 高岡市中心市街地活性化協議会による意見書

平成24年1月26日

高岡市長 高橋 正樹 様

高岡市中心市街地活性化協議会
会 長 川村 人志

第2期高岡市中心市街地活性化基本計画（案）に関する意見書

平成24年1月19日付け商観第185号で、意見照会のありました「第2期高岡市中心市街地活性化基本計画（案）」（以下「基本計画（案）」）については、概ね妥当であるとの結論に至りました。

なお、基本計画（案）が実効性あるものとなるため、下記のとおり意見を申し添えます。

（付帯意見）

(1) 中心市街地活性化への取り組みについて

高岡市が富山県西部の中核都市として機能していくためには、市全体の活性化が是非とも必要であり、とりもなおさず中心市街地の活性化が重要であります。第1期計画に引き続き、基本計画（案）を策定され、国の認定を目指されることは、時宜を得たものと評価するものであります。

当協議会においては、これまで協議会・幹事会・専門部会等を開催し、官民一体となった中心市街地活性化の取り組みについて議論を進めてまいりました。

高岡市におかれては、今後とも市民・民間事業者、商業者等が共有・共感できるまちづくりを目指し、尽力されるようお願いいたします。

(2) 中心市街地活性化の基本方針・目標について

第1期計画における各事業の実施により、4つの目標指標のうち、「主要観光施設における観光客入込み数」、「中心商店街（6地点）における歩行者・自転車通行量の平均値」、「中心商店街（4商店街）における空き店舗数」においては、上昇ないしは下げ止まりのトレンドを描いており、改善が進んでいます。第1期計画の取り組みが中心市街地活性化に向けて有効であると確認されたことから、第2期計画では、第1期計画の基本方針・目標に沿ったまちづくりを進めることは、妥当であると考えます。

また、事業進捗の成果として定められている4つの数値目標については、実現性が高く、活性化の状態を図る上で妥当であると考えます。

(3) 中心市街地活性化の事業について

基本計画(案)に盛り込まれた事業については、1期計画の成果・課題を踏まえた取り組みとなっており、概ね妥当と考えます。ただし、当協議会において特に意見のあった次の事項について、十分配慮いただきたい。

- ① まちづくりは、市民が主体となることが必要であり、そのためには、市民・地域住民にとって判りやすく、共感できるまちづくりプラン・活性化事業の推進に努めること。
- ② 国の認定を受けた高岡市歴史まちづくり計画との連携や平成26年度末に迎える北陸新幹線の開業効果を取り込みながら、中心市街地の活性化に努めること。
- ③ 基本計画(案)に掲げる事業の実効性を確保するとともに、各事業のフォローアップにより、事業の成果・妥当性の検証に努めること。

また、検証結果に応じて、基本計画(案)の事業見直し等に柔軟に対応すること。

- ④ 今後、基本計画(案)に記載されていない事業が実施されることとなった場合、協議会の協議を経て、速やかに基本計画の変更等の対応を行うこと。

(4) 中心市街地活性化の推進体制について

高岡商工会議所とまちづくり会社末広開発(株)が共同して、「高岡市中心市街地活性化協議会」を平成18年12月21日に設立しました。

また、末広開発株式会社では、平成17年4月に高岡商工会議所からTMOの事業移管を受け、まちづくり事業部を設置し、様々な中心市街地活性化のための事業を主体的に展開しております。

高岡市中心市街地活性化基本計画の推進にあたっては、当協議会が中核的な役割を担いつつ、末広開発(株)をはじめ、行政、市民、事業者、商業関係者及び関係団体が一体となって取り組むことが重要であります。

当協議会では、引き続き、事業の推進に積極的に取り組んでまいり所存でありますので、高岡市におかれても当協議会にご支援くださるようお願いいたします。

(4) 高岡市中心市街地活性化協議会の活動経過

平成 25 年 3 月 11 日	計画の一部変更に係る意見聴取に対して回答する。
平成 26 年 1 月 23 日	計画の一部変更に係る意見聴取に対して回答する。
平成 27 年 5 月 28 日	計画の一部変更に係る意見聴取に対して回答する。

[3] 基本計画に基づく事業及び措置の一体的推進

(1) 中心市街地活性化基本計画 1期計画の総括（詳細は1.-[3]を参照）

i) 実施状況

1期計画は、平成19年11月に策定し、「光り輝くまちなかの創生～400年の資産を守り、育み、繋ぐ～」をスローガンに掲げ、目標を、①歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大、②まちなか居住の推進、③中心商店街の賑わい創出、の3項目に定め、中心市街地の活性化に取り組むこととした。

1期計画において掲げた92事業のうち、平成23年10月時点で32事業が完了、56事業が実施中、未実施の事業は4事業となっており、事業進捗率は95.7%である。

ii) 実施成果および課題

1期計画における各事業の実施により、目標指標はまちなか居住人口を除いて上昇ないしは下げ止まりのトレンドを描いており、改善が進んでいる。現時点では目標数値に到達していない指標もあるが、事業実施の成果は着実に表れている。

また、1期計画において必ずしも十分な成果が上がっていないまちなか居住の推進についても、中心市街地における共同住宅の建設開始や大規模商業施設の出店がなされるなど、今後のまちなか居住推進に向けて土台となる環境は整いつつある。

2期計画では、1期計画において大きな成果を上げた事業に取り組むとともに、高岡市歴史的風致維持向上計画との連動と北陸新幹線開業効果を取り込みながら、それぞれの事業のレベルアップと連携によって、波及効果を生みながら中心市街地全体の活力を向上させていく必要がある。

	事業数	完了	実施中	未実施	実施率
①土地区画整理事業、市街地再開発事業、道路、公園、駐車場等の公共の用に供する施設の整備その他の市街地の整備改善のための事業	35*	21*	14*	0	100%
②都市福利施設を整備する事業	5	1	4	0	100%
③公営住宅等を整備する事業、中心市街地共同住宅供給事業その他の住宅供給のための事業及び当該事業と一体として行う居住環境の向上のための事業等	6	1	4	1	83.3%
④中小小売商業高度化事業、特定商業施設整備事業その他の商業の活性化のための事業及び措置	38	6	30	2	94.7%
⑤①から④までに掲げる事業及び措置と一体的に推進する事業	15*	5*	9*	1	93.3%
合計	92	32	56	4	95.7%

（平成23年10月現在） *複数の項目にまたがる事業（7事業）を含む

①歴史・文化資産の活用によるまちなか交流人口の拡大

i) 実施結果

1期計画の取り組みにより、中心市街地主要観光施設の観光客入込み数は増加基調に転じ、平成22年は117万人と、基準値である平成18年比で20万人（21%）の増加となり、ほぼ目標数値に近い水準に達している。また、高岡の歴史・文化資産を活用

したまちづくりの取り組み状況については、市民意識調査では、中心市街地の観光地としての魅力向上を評価する回答が多くみられ、市民の中で改善が実感されていることから、全体として計画通りの成果を上げている。

ii) 2期計画に向けた課題

主要観光施設全体では、ほぼ計画通りの成果を上げているが、高岡古城公園および瑞龍寺と比較し、高岡大仏および山町筋では、観光客入込み数に伸び悩みがみられる。観光地の魅力向上及び集客に繋がる核施設の整備に取り組むとともに、観光拠点間を歩いて巡る回遊性を創出する仕組みづくりが課題として挙げられる。

②まちなか居住の推進

i) 実施結果

平成23年3月末時点における中心市街地の居住人口は16,360人と、目標数値を下回る結果となった。まちなか居住支援事業の利用による人口増加・下支え効果があるなど、1期計画の取り組みにより一定の成果をみたが、当初予想を上回る人口の自然減及び子供同居世帯の流出をはじめとする社会減が発生したことから、居住人口の増加には至らなかった。

まちなか居住人口が減少する一方で、継続的に取り組んでいる朝市・夕市の開催やホームセンターと食品スーパーを複合した大規模商業施設が開店したことにより、中心市街地における日常生活の利便性が向上していることや、共同住宅2棟の建設が進むなど、1期計画の取り組みにより、まちなか居住の環境は、着実に好転している。

ii) 2期計画に向けた課題

まちなか居住支援事業を継続するとともに、中心市街地での高齢化の進展や若年層、子供同居世帯の流出が進んでいる状況を踏まえ、公共交通機関の利便性向上や子育て支援センターや生涯学習センターなどの都市福利施設の取り組みの充実を図るなど、高齢者や子育てなどの幅広い層が住みやすい住環境の創出に取り組む必要がある。

また、駅周辺地域で進む共同住宅2棟の建設や大規模商業施設の開店などを好機として捉え、まちなか居住支援事業を活用した更なる住宅建設を促進するなど、まちなか居住を推進していく必要がある。

③中心商店街の賑わい創出

i) 実施結果

中心商店街（6地点）における歩行者・自転車通行量の平均値については、平成22年には11,648人となり、基準年比で3%増加し、平成22年時点では目標数値は到達していないものの、1期計画以降はそれまでの長期的な減少傾向に歯止めがかかっており、各事業実施による効果が表れてきている。特に、ウイング・ウイング高岡～御旅屋セリオを結ぶ末広通り西側の通行量が基準年比1.7倍の増加となっていることから、回遊向上に向けた取組みは成果が確認されている。また、各種イベント、朝市・夕市・フリーマーケットの実施、および開業支援による商業・飲食機能強化の取組

みは、来街機会の創出を通じて中心市街地の歩行者・自転車通行量の増加に寄与していると考えられる。

中心商店街（4商店街）における空き店舗数については、1期計画の取り組みにより、平成18年の空き店舗数46店舗から目標数値37店舗を大幅に上回る25店舗へと減少し、大きな成果を上げている。特に、中心市街地における開業支援事業は、中心商店街（4商店街）において8店舗の開業に寄与するとともに、既存店舗リニューアル支援事業は既存店舗の空き店舗化防止に寄与した。これらの店舗開業・維持に空き店舗減少は、間接的な効果として、開業支援によらない新たな店舗の出店を促すなど、中心商店街の機能維持・向上に寄与した。

ii) 2期計画に向けた課題

1期計画の取り組みにより末広通り西側の通行量は増加したが、今後は、ウイング・ウイング高岡や御旅屋セリオの拠点施設から商店街へ回遊する取り組みを進めるとともに、高岡駅南北自由通路を通る駅南北の回遊促進に取り組むことが重要である。オフィス開設支援については、支援制度の利用申請がなかったことから、オフィス開設支援の拡充を図り、昼間人口の増加に繋がるオフィス開設誘致に取り組む必要がある。あわせて、飲食や物販店舗の開業も促進し商業機能の強化を図ることで、来街者数を増加し空き店舗数を減少する取り組みを進める必要がある。

(2) さまざまな主体の巻き込みと各種事業等との連携・調整等

①地域住民を対象とした中心市街地活性化に関する啓発活動の実施状況

(ア) 各種広報活動の実施

- ・委員会開催時における議事の公開（新聞、テレビ報道による情報提供）
- ・ホームページによる情報公開
- ・市民等からの意見募集の実施（平成23年1月（予定））
- ・高岡市広報「市民と市政」への掲載（平成23年6月（予定））

(イ) まちづくり活動の一元化

平成17年度から、中心市街地活性化のシンボルであるウイング・ウイング高岡を管理、運営する第3セクター・末広開発(株)をまちづくり機関（旧TMO）として、まちづくり活動に取り組んでいる。末広開発(株)は、中心市街地の活性化に取り組む部門としてまちづくり事業部を設置し、末広開発(株)の担当職員（2名）及びパート職員（3名）、商工会議所における担当職員（1名）、民間企業からの派遣（3名）、高岡市における担当職員（2名）により、中心市街地や店舗で行われるイベントや新規開業店舗の情報、中心商店街にある空き店舗の状況など、中心市街地に関する情報の一元化が図られ、まちづくり活動がより活性化している状況である。

あわせて、指定管理者制度を活用し、中心市街地に立地する公共施設を末広開発(株)等に委託することにより、効率的な施設運用が図られている。

(参考) 中心市街地に立地する公共施設の指定管理制度の活用状況

施設名	委託先	業務内容
高岡市生涯学習センター	末広開発(株)	生涯学習センターの管理運営 (ウイング・ウイング 高岡内に立地)
ウイング・ウイング高岡 広場	末広開発(株)	公園の管理運営 (ウイング・ウイング 高岡前に立地)
高岡市中心商店街活性化 センター「わろんが」	末広開発(株)	中心商店街における利便施設の 管理運営
高岡市SOHO事業者支援オ フィス	(株)えんじゅビル	SOHO オフィスの管理運営 (ビル内に設置)
高岡市営高岡中央駐車場 高岡市営オタヤグリーン パーキング 高岡市営高岡駐車場 高岡市営高岡駅南駐車場	三菱電機ビルテクノサー ビス株式会社・テクノトラ スト株式会社共同企業体	駐車場の管理
高岡市営御旅屋駐車場	(株)えんじゅビル	駐車場の管理 (ビルと併設)
高岡市土蔵造りのまち資 料館	土蔵造りのある山町筋ま ちづくり協議会	資料館の管理運営

(ウ) 各種団体等からの参加によるまちづくり活動の推進及び各種事業との連携

・ No.34 たかまちプロムナード事業 の取り組み

中心商店街は、店主の高齢化や後継者不足による閉店、大規模小売店舗の郊外進出による消費者の商店街離れなどにより、かつての賑わいに比べると停滞している状況にある。中心商店街の賑わい創出と魅力の向上を図るため、JR高岡駅を起点に末広町通り、御旅屋通りを経て高岡大仏前に至る本市の中心市街地の代表的なルートの一歩一歩ビジョンと、商店街の顔づくりのための具体的な方策を研究している。

事業に研究にあたっては、中心商店街に店舗を展開する若手や女性経営者とまちづくりの専門家、高岡市から組織する会議を設置し、まちの魅力となる要素を探し出しや、具体的な取り組みを実践するための体制・仕組みづくりの構築を図っている。

今後は、実践的な事業の展開を図り、市民や観光客がまち歩きを楽しむ仕掛け作りを進めていく。

・ No.37 金屋町楽市開催事業 の取り組み

金屋町は、400年の歴史を誇る高岡鑄物発祥の地で、「さまのこ」呼ばれる千本格子がはめ込まれた伝統的な町家が残り石畳通りと合わせて美しい町並みを形成している。地域住民は、「金屋町まちづくり憲章」の制定や、まちづくり協議会や観光ボランティアガイドを組織するなど、まちづくり活動に熱心に取り組んでいる。

伝統工芸の職と人々の生活が一体となって今に残る金屋町で、歴史的・文化的な町並みと「ものづくりのまち」という地域資源を生かし、伝統工芸の再活性化と地場産業の再生、中心市街地の賑わい創出を図るため、平成20年に、地元

立地する富山大学芸術文化学部と地元自治会、商工会議所、市による産・学・官・民連携の「金屋町楽市実行委員会」を立ち上げた。

「金屋町楽市」では、伝統的な町家内や通りの日常生活空間内に工芸品を展示する「ゾーンミュージアム」というコンセプトで、2日間だけの時間と空間を限定したイベントを展開し、中心市街地の賑わい創出に取り組んでいる。

今後も新たな企画を加えるなどイベント内容の充実を図るとともに、他都市でのPRにも取り組み、来場者の増加及び中心市街地の活性化に繋げる。

・No.39 芸文ギャラリー運営事業 の取り組み

学術研究面におけるものづくりのまちの象徴として、富山大学芸術文化学部のキャンパスが市内にある。富山大学芸術文化学部に進学する学生には県外出身者が多いことから、実りある学生生活の一要素として、学内では体験できない仕掛けづくりをまちなかで提供することが重要である。

そのため、富山大学芸術文化学部、末広開発(株)、高岡市等が連携し、平成19年から高岡駅前地下街に「駅地下芸文ギャラリー」を設置した。ギャラリーでは、大学の学生、教官、卒業生等による企画展が開催されるなど、中心市街地における大学の活動発表の拠点として活用がなされている。

今後は、ものづくりのまち高岡の特長を広めるため、中心商店街にある伝統工芸技術が見える施設「工房「手わざ」」や、金屋町に開設されたものづくりに携わる若手が集まる「金属工芸工房かんか」などとの連携を図り、ものづくりの文化を活用した事業を実施する。

・No.45 中心市街地における季節ごとの大型イベント開催事業／No.46 中心商店街活性化イベント開催事業／No.47 文化遺産活用イベント開催事業 の取り組み

中心市街地では、末広開発(株)が主体となった各種イベントを開催している。

1月に行われる日本海高岡なべ祭りや、8月の高岡七夕まつりでは、商店街団体や、中心市街地の大型店等から成る「たかまち街づくり協議会」が、イベントにあわせた共同販促事業を開催することにより、中心商店街の回遊性の向上及び賑わい創出を図っている。

また、地元の自治会や商業団体などが中心となり、国宝・瑞龍寺を幻想的にライトアップし、参道では門前市を開催する「瑞龍寺ライトアップ事業」や、瑞龍寺から前田利長墓所を繋ぐ八丁道で、飲食物や衣料品、小物など様々な人が出店するフリーマーケット「八丁道おもしろ市」の開催など、市民が主体となり、自分たちでできるまちづくり活動を実践している。

今後とも、中心市街地活性化に取り組んでいる各種団体や関係者のみならず、中心市街地活性化に興味がある人が気軽に参画しやすい環境を整備することにより、多方面に渡る中心市街地活性化に関する取り組みを支援していく。

(3) 客観的現状分析、ニーズ分析

「1.-〔2〕-(3) データから見た中心市街地の現状」及び「1.-〔2〕-(4) 市民から見た中心市街地の現状」(6～26 ページ)を参照